

平成24年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年12月15日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 銚子丸

 コード番号 3075 URL <http://www.choushimaru.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 堀地速男

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長

(氏名) 越智洋

TEL 043-350-1266

四半期報告書提出予定日 平成23年12月28日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年5月期第2四半期の業績(平成23年5月16日～平成23年11月15日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年5月期第2四半期	8,565	△1.3	258	△52.0	275	△50.8	122	△54.0
23年5月期第2四半期	8,674	10.7	538	23.5	560	23.0	266	6.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年5月期第2四半期	42.30	—
23年5月期第2四半期	91.93	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
24年5月期第2四半期	6,880		4,037		58.7		1,390.65	
23年5月期	7,162		3,993		55.7		1,375.36	

(参考) 自己資本 24年5月期第2四半期 4,037百万円 23年5月期 3,993百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年5月期	—	0.00	—	27.00	27.00
24年5月期	—	0.00	—	—	—
24年5月期(予想)	—	—	—	27.00	27.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年5月期の業績予想(平成23年5月16日～平成24年5月15日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,358	△0.2	624	△42.9	654	△42.0	323	△44.5	111.25

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正については、本日(平成23年12月15日)公表いたしました「第2四半期業績予想の差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年5月期2Q	2,903,600 株	23年5月期	2,903,600 株
② 期末自己株式数	24年5月期2Q	273 株	23年5月期	273 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年5月期2Q	2,903,327 株	23年5月期2Q	2,903,471 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間(平成23年5月16日から平成23年11月15日)におけるわが国の経済は、東日本大震災による影響や、その後の電力不足等による景気の停滞から、一部に持ち直しの傾向が見られたものの、雇用情勢に回復の兆しは見られず、米国の景気減速、欧州の債務問題に加えて急速な円高・株安の進行など景気下振れも懸念され、先行き不透明な状況で推移いたしました。

外食産業におきましても、雇用情勢の悪化懸念等により消費者の節約志向が依然として根強く、デフレ傾向を背景に低価格競争が激しさを増すなど、引続き厳しい状況が続いております。

このような状況において、当社は経営理念に掲げる「私達の『真心』を提供し、お客様の『感謝と喜び』を頂くことを私達の使命と致します」に基づいた「おいしい舞台」作りのために、「飽きの来ない旬の食材」「鮮度」「海の香り」「魚屋の精神」「番屋の雰囲気」を追求するとともに、「おいしい舞台」を完成させるために、「親切・思いやり・誠実さ」に溢れた接客・サービスを愚直に実践し、「お客様のご要望に対して、何が足りないのか」を常に考え、全社一丸となってお客様に愛される店舗づくりに邁進いたしました。

店舗開発につきましては、当第2四半期累計期間において南船橋店(平成23年8月)及び富里店(平成23年9月)を新規に出店し、相模原中央店(平成23年10月)を退店した結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は77店舗となりました。

販売促進につきましては、時節の旬の食材によるイベントの継続的開催、及びセットメニュー・サイドメニューの充実を図るとともに、「5貫500円セット」を新たにメニューに加え、低価格志向のお客様の来店動機高揚に努めてまいりました。

しかしながら、当第2四半期累計期間における既存店売上高は前年同期比92.4%にとどまり、売上高は85億65百万円(前年同期比1.3%減)となりました。売上高の減少、震災・天候不順等による原材料価格の上昇や、販売体制強化にともなう人件費増加などにより、営業利益は2億58百万円(同52.0%減)、経常利益2億75百万円(同50.8%減)、店舗に係る減損損失45百万円及び店舗閉鎖損失3百万円を特別損失に計上したことにより、四半期純利益は1億22百万円(同54.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ2億81百万円減少し、68億80百万円(前事業年度末比3.9%減)となりました。主な要因は、次のとおりです。

流動資産は、前事業年度末に比べ3億5百万円減少し、37億96百万円(同7.5%減)となりました。減少の主な内訳は、現金及び預金2億6百万円の減少、ならびに原材料及び貯蔵品47百万円の減少であります。

固定資産は、前事業年度末に比べ23百万円増加し、30億84百万円(同0.8%増)となりました。これは、当第2四半期累計期間において2店舗を新規出店したことによる店舗設備、敷金及び保証金の増加があった一方で、減価償却等により店舗設備等の減少があったことによるものであります。

(負債・純資産)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ3億26百万円減少し、28億43百万円(前事業年度末比10.3%減)となりました。主な要因は、次のとおりです。

流動負債は、前事業年度末に比べ3億27百万円減少し、21億61百万円(同13.2%減)となりました。減少の主な内訳は、買掛金2億32百万円の減少、ならびに納税資金として調達した短期借入金1億円の増加、未払法人税等1億64百万円の減少であります。

固定負債は、前事業年度末に比べ1百万円増加し、6億82百万円(同0.2%増)となりました。

純資産は、前事業年度末に比べ44百万円増加し、40億37百万円(同1.1%増)となりました。これは当第2四半期累計期間の四半期純利益1億22百万円及び第34期期末配当金の支払78百万円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末と比較して2億7百万円減少し、29億24百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は3百万円(前年同期は1億52百万円の獲得)となりました。これは、税引前四半期純利益2億26百万円、減価償却費1億25百万円による資金の獲得及び、法人税等の支払額2億68百万円による資金の使用によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2億8百万円(前年同期は1億45百万円の使用)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出1億61百万円、敷金及び保証金の差入による支出27百万円による資金の使用によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は2百万円(前年同期は31百万円の獲得)となりました。これは短期借入金の純増加1億円による資金の獲得及び、リース債務の返済による支出25百万円、配当金の支払額77百万円による資金の使用によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

第3四半期以降の経営環境につきましては、米国の景気減速、欧州の債務問題、急速な円高・株安の進行などによる景気下振れの懸念から、経済の先行きは不透明かつ大きなリスクを抱えております。

外食産業においては、雇用情勢の悪化により消費者の節約志向は依然根強く、外食の手控え及び低価格志向に拍車をかけており、当第2四半期累計期間同様の経営環境が続くものと予測されます。

このような厳しい状況が見込まれるため、平成23年6月30日公表の平成24年5月期通期(平成23年5月16日～平成24年5月15日)の業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日別途公表の業績予想の修正に係る適時開示資料をご参照ください。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

② 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年5月15日)	当第2四半期会計期間 (平成23年11月15日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,568,121	3,361,212
売掛金	4,612	2,287
原材料及び貯蔵品	212,943	165,520
預け金	105,435	60,075
その他	210,763	207,098
流動資産合計	4,101,877	3,796,194
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,093,954	1,088,264
その他(純額)	559,628	572,161
有形固定資産合計	1,653,582	1,660,426
無形固定資産		
投資その他の資産	20,924	24,471
敷金及び保証金	744,852	754,438
建設協力金	349,855	345,111
その他	292,840	301,318
貸倒引当金	△1,078	△1,078
投資その他の資産合計	1,386,470	1,399,789
固定資産合計	3,060,977	3,084,687
資産合計	7,162,855	6,880,881
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,022,086	790,062
短期借入金	150,000	250,000
未払金	759,952	725,009
未払法人税等	285,247	120,473
賞与引当金	65,600	76,200
株主優待引当金	25,688	26,405
その他	180,002	172,850
流動負債合計	2,488,577	2,161,001
固定負債		
資産除去債務	154,609	157,711
長期末払金	359,700	359,700
その他	166,834	164,955
固定負債合計	681,143	682,367
負債合計	3,169,721	2,843,368

(単位:千円)

	前事業年度 (平成23年5月15日)	当第2四半期会計期間 (平成23年11月15日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	315,950	315,950
資本剰余金	236,829	236,829
利益剰余金	3,441,087	3,485,521
自己株式	△636	△636
株主資本合計	3,993,231	4,037,665
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△97	△152
評価・換算差額等合計	△97	△152
純資産合計	3,993,133	4,037,512
負債純資産合計	7,162,855	6,880,881

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成22年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年5月16日 至平成23年11月15日)
売上高	8,674,271	8,565,082
売上原価	3,568,089	3,582,835
売上総利益	5,106,181	4,982,247
販売費及び一般管理費	4,567,899	4,724,029
営業利益	538,282	258,217
営業外収益		
受取利息	3,222	2,819
協賛金収入	14,398	14,613
その他	9,489	5,066
営業外収益合計	27,110	22,499
営業外費用		
支払利息	2,860	2,932
現金過不足	1,737	1,657
その他	25	169
営業外費用合計	4,622	4,759
経常利益	560,770	275,957
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	61,763	—
減損損失	—	45,901
店舗閉鎖損失	—	3,611
特別損失合計	61,763	49,512
税引前四半期純利益	499,006	226,445
法人税等	232,101	103,621
四半期純利益	266,904	122,824

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年5月16日 至 平成22年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年5月16日 至 平成23年11月15日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	499,006	226,445
減価償却費	118,566	125,444
減損損失	—	45,901
店舗閉鎖損失	—	3,611
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	61,763	—
建設協力金と相殺した地代家賃・賃借料	21,879	22,844
賞与引当金の増減額(△は減少)	45,280	10,600
受取利息及び受取配当金	△3,231	△2,828
支払利息	2,860	2,932
売上債権の増減額(△は増加)	2,463	2,324
たな卸資産の増減額(△は増加)	△50,205	47,423
仕入債務の増減額(△は減少)	△153,132	△232,023
未払消費税等の増減額(△は減少)	△21,314	△20,149
その他	△69,167	41,727
小計	454,767	274,253
利息及び配当金の受取額	1,391	700
利息の支払額	△2,836	△2,870
法人税等の支払額	△301,167	△268,406
営業活動によるキャッシュ・フロー	152,155	3,677
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△413,715	△413,952
定期預金の払戻による収入	413,029	413,715
有形固定資産の取得による支出	△99,130	△161,996
無形固定資産の取得による支出	—	△4,767
長期前払費用の取得による支出	△49	△12
敷金及び保証金の差入による支出	△49,000	△27,010
敷金及び保証金の回収による収入	2,911	2,823
建設協力金の支払による支出	—	△17,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△145,955	△208,199
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	350,000	500,000
短期借入金の返済による支出	△260,000	△400,000
リース債務の返済による支出	△19,555	△25,538
自己株式の取得による支出	△338	—
配当金の支払額	△38,797	△77,087
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,307	△2,625
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	37,508	△207,147
現金及び現金同等物の期首残高	2,596,519	3,131,156
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,634,027	2,924,009

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。